

「ステップ」活用で自学する力を高める

山形県天童市立蔵増小学校教諭 東海林 仁

「自ら考え、学び合う子どもの育成」

これは、本校の教育研究主題です。日々の実践を通して、子どもが学習に向かう姿にどんな願いをもち授業を組み立てていくのか。どの学校も、その願いを本校の教育研究主題に端的に表そうとしています。

ところで、説明責任という言葉が、学校現場でも使われるようになりました。教育成果の努力目標をマニフェスト風に表現したり、標準化された学力検査の成績履歴をもとに、そこからの引き上げ目標を数値化したりして、公開している学校も見られます。

学力の保障に関わる論議はさまざまありますが、いずれにせよ、「生涯にわたって学び続けることのできる意欲と方法を子どもの中に育む」ことが、学校に求められる本質的な機能であり、責務であるということなのだろうと思います。

そのために、私たちは学習内容の定着を図り、適宜反復や適用の問題に取り組みます。学年のまとめの時期が近づくと、どのような問題集が効果と効率を生むだろうかということは、大きな関心事になります。

私は、ここ数年、まとめの教材として新学社の「〇年へのステップ」を選んでいきます。



「〇年へのステップ」の効果的な使い方

「〇年へのステップ」は、教科毎の分冊構成で、各単元・領域等の内容が2ページでまとまっていることもあって、当初は、復習する子どもの側から見ても圧迫感がないということが単純な採用理由でした。



▲6年へのステップ (算数)

4 小数のわり算

1. 縦書きのわり算をしよう。

2. 小数のわり算のしくみを説明しよう。

3. 小数のわり算の応用問題を解こう。

4. 小数のわり算の応用問題を解こう。

5. 小数のわり算の応用問題を解こう。

6. 小数のわり算の応用問題を解こう。

7. 小数のわり算の応用問題を解こう。

8. 小数のわり算の応用問題を解こう。

9. 小数のわり算の応用問題を解こう。

10. 小数のわり算の応用問題を解こう。

11. 小数のわり算の応用問題を解こう。

12. 小数のわり算の応用問題を解こう。

13. 小数のわり算の応用問題を解こう。

14. 小数のわり算の応用問題を解こう。

15. 小数のわり算の応用問題を解こう。

16. 小数のわり算の応用問題を解こう。

▲4年へのステップ (理科)

3 チョウのそだち方

1. チョウのそだち方を観察しよう。

2. チョウのそだち方を観察しよう。

3. チョウのそだち方を観察しよう。

4. チョウのそだち方を観察しよう。

5. チョウのそだち方を観察しよう。

6. チョウのそだち方を観察しよう。

7. チョウのそだち方を観察しよう。

8. チョウのそだち方を観察しよう。

9. チョウのそだち方を観察しよう。

10. チョウのそだち方を観察しよう。

11. チョウのそだち方を観察しよう。

12. チョウのそだち方を観察しよう。

13. チョウのそだち方を観察しよう。

14. チョウのそだち方を観察しよう。

15. チョウのそだち方を観察しよう。

16. チョウのそだち方を観察しよう。

▲6年へのステップ (算数)

1 整数と小数

1. 整数と小数の性質を説明しよう。

2. 整数と小数の性質を説明しよう。

3. 整数と小数の性質を説明しよう。

4. 整数と小数の性質を説明しよう。

5. 整数と小数の性質を説明しよう。

6. 整数と小数の性質を説明しよう。

7. 整数と小数の性質を説明しよう。

8. 整数と小数の性質を説明しよう。

9. 整数と小数の性質を説明しよう。

10. 整数と小数の性質を説明しよう。

11. 整数と小数の性質を説明しよう。

12. 整数と小数の性質を説明しよう。

13. 整数と小数の性質を説明しよう。

14. 整数と小数の性質を説明しよう。

15. 整数と小数の性質を説明しよう。

16. 整数と小数の性質を説明しよう。

最初は、8回で年間の復習ができる問題量からも、年度末・年度初めの春休みの課題として与えていたのですが、基礎を精選した「ステップA」と応用問題をまとめた「ステップB」の構成のよさを最大限に生かすには、12月ごろから子どもたちに与えた方が、効果的ではないかと考えるようになりました。

ステップA

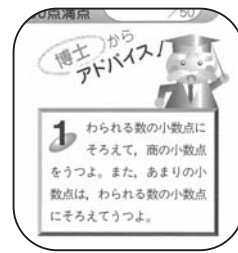
「既習単元・領域のページ」
既習単元・領域のページについては、「ステップA」を先行して取り組ませ、基礎の定着確認を行っていきます。そこでつまづきのある問題は、ミスをすることで自覚できます。

効果倍増!

わたしの教材活用術

日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？
このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

「博士からのアドバイス」という形で、解き方・考え方のポイントが示されていることもあり、そのアドバイスに関連づけることによって、学習した授業場面が想起されやすいようでした。



「学習中の単元・領域のページ」

学習中の単元・領域のページについては、各教科とも単元のテストの直前に向かわせることで、習得できているかどうかをリアルタイムに自覚することができます。複数教科で1冊ではなく教科毎の分冊になっているので、授業の流れにあわせて組み込むことができます。

この教材は、問題のポイントや何が重要なのかということについて、丁寧なアドバイスが掲載されているので、「わからないからしない」と、問題を放棄する子どもの姿は減ったように思います。また、ところどころに出てくるヒントも、子どもがつかまずいたときに役に立っているようです。



▲算数のヒント

さらに、別冊の解答書にも詳しい解説が掲載されています。自己採点する際にも、その解説を手がかりにすることで、自分にとっての「？」がほとんど解決でき、子どもたちにとっての「取り組みやすさ」につながっているようです。これは、教科毎の分冊になっていることで圧迫感がないということと同じく、その魅力かも知れません。

解答書を読んでもわからない場合は、活字を生の声で言い直すと理解が高まるケースがままあります。ですから、低位の児童には、必ず口頭で解説をするようにしています。



▲解答と手びき (算数)

▼解答と手びき (国語)



ステップB

「春休みの取り組み」

現在、特に高学年では、3学期の間に「ステップA」を利用して基礎の定着確認を済ませた上で、春休みに課題として「ステップB」に取り組みさせています。

クラスが持ち上がらない場合は、次の担任に春休みの課題として子どもたちが取り組んでいることを引き継ぎ、わからない問題があったときのフォローをお願いします。

また、6年生の場合は、離任式(山形の場合は3月30日頃)までにできる限り取り組みよう子どもたちに指示をし、迷った問題やわからなかった問題、解答書を読んでも理解できなかったものについての質問会を、主に算数で行っています。



▲6年へのステップ (算数)



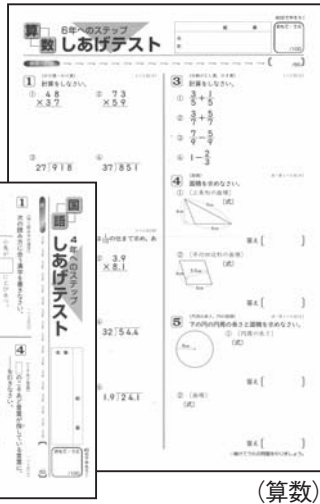
▲4年へのステップ (理科)

しあげテスト

「テスト直前の力試し」

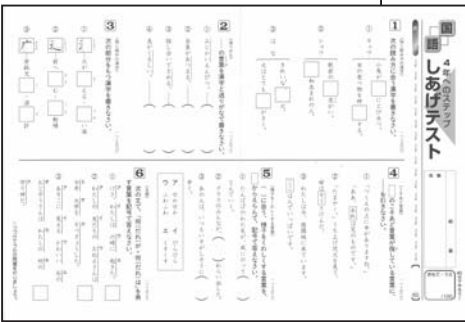
すべての教科・学年に、「しあげテスト」が付いています。持ち上がりの場合には、年度初めに「しあげテスト」で4教科すべての弱点補強を行います。本校では4月20日前後に標準学力検査を行うので、その直前の確認としてたいへん重要しています。

また、過去に6年生を受け持ったときには、国立大附属中学校の受験を希望する児童がいたので、この「しあげテスト」を受験学習の整理用に使うことができました。国立の場合は、難問奇問は出題されませんので、腕試しにちょうど良かったようです。



(算数)

(国語)



以上のように、ステップを単に長期休業に限定した復習教材として使うのではなく、3学期から取り組むようになった背景には、子どもたちひとりひとりがどの部分でつまんでいるのかを時間をかけずに把握したいという思いがありました。ステップの問題は、精選されているゆえに、つまずきが絞り込みやすいのではないかと考えたのです。

高学年の場合、理科や社会科に専科の先生が入ったり、あるいは学年部等の先生方どうしでの授業交換が行われたりするケースも多いかと思います。教科毎の分冊になっている構成は、この点からも使いやすいと思います。

子どもたちの変化

「ステップA」と「ステップB」の使い分けを、教科を問わず、同じ方法で取り組ませたことによって、子どもたちの自学への向かい方についても「問題は解いて、答え合わせをしたものの、その後どうしたらいいかわからなくて困っちゃった」という様子が見当たらなくなってきました。また、自主勉強用のノートなどをまとめる際に、解答書にある解説の中から、自分のつまずきやすいところを視写することで勘違いや不注意なミスを防ぐうとする活用の工夫に取り組む子どもの姿も見られるようになってきました。これらは、子どもたちひとりひとりの自学するリテラシーが全体的にレベルアップしてきていること

の現れととらえています。

子どもたちが、新たに出会った学習内容について、大なり小なり、自らの体験や既得の知識と結びつけて理解しようとしていたり、それを反芻して他の条件でも当てはまるかどうかを考えたりしている姿に触れると、最初に述べた「学力の保障」は「学習力の育成」があつてこそ成立するものなのだ、今はまた、あらためてそう感じています。

